

令和5年3月23日(木) 午前10時

白老町議会第1委員会室

司会：西田祐子広報広聴常任委員長

## 大塩英男町長と松田謙吾議長のざっくばらん対談

**○司会（西田祐子委員長）** 本日はお忙しいなかお越しいただきありがとうございます。ご挨拶をさせていただきます。

大塩町長が初当選されましたので、白老町の未来について松田議長とざっくばらん対談をしていただきたいと思いますという白老町議会広報広聴常任委員会の企画です。

今回町長選挙が3月だったものですから、定例会3月会議では代表質問・一般質問が行えず、町民の方に町長の政策を議員の質問の中からお示しすることができませんでした。

また、町長の政策、立候補されたときの公約等いろいろありますので、そういったものもできれば多くの町民の方に知っていただきたい、そのような思いで企画しました。今日はどうぞよろしく願いいたします。

それでは、はじめに大塩町長の子供の頃について伺ってみたいと思います。

**○大塩英男町長** 割と活発な子供でした。人前に出ることが好きなほうで、小学生の時は児童会に立候補をして選挙運動をしました。今でも忘れないのが、公約とか全くないのですが、給食の時間にただ「よろしく願います。よろしく願います。」とやっていました。当時は会長ではなかったのですが、選挙活動みたいなことをして児童会に見事当選したという思い出があります。

高校時代は生徒会長になりまして、当時は女子のコートの色が決められていて、それを自由にしてくれということで先生方と話し合いをして、生徒会活動の中で校則を変えたのです。そんな思い出があります。

ですから人前に出て、人の役に立つことをしたいと言ったらいいのかどうか、そのような明るい性格だったのではないかと自分では思っています。

**○司会** おじい様（磯部義光氏、明治40年生まれ、昭和22年安平村長として8期32年務める）が旧早来町長を長くされていたと聞いていますが、児童会に立候補されたとか高校時代に生徒会長をされたとか、おじい様の影響はありますか。

**○大塩町長** 祖父が町長だったから自分がということは直接的にはありませんが、少なからず祖父の影響はあったかなと思っています。祖父は私が24歳のときに亡くなりましたので、役場に勤めてから祖父と公務員について話したことはそんなに数多

くはなかったのですが、まず公務員としての心構えを教わりました。とにかく人のために働かなければならないよという話を祖父からずっと聞いていました。祖父は町長という立場だったのですけれど、ちょっと古い言い方になりますが「町の小使いさん」という言い方をされていて、本当に町民の皆さんのために働かねばならないというようなことをずっと言っていて、母からも「そういう立場にならなければならないよ」と聞かされていました。

祖父との思い出ということでしたが、祖父が8期町長を終えた後、早来町の名誉町民ということで昭和57年11月3日に表彰されまして、現安平町民センターに銅像がありますが、その除幕式を私が行いました。当時7歳の小学校2年生で「祖父がこんなふうにならなくてここに飾られて、すごい人だな」と子供ながらに思いました。

**○司会** 議会を代表して、松田議長から大塩町長に望むこと、期待したいこと、託したいことなどありましたらお願いします。

**○松田謙吾議長** 何よりも1か月くらいしかない間に、しかも2人が立候補した町長選挙で、よく思い切ってやられたと思っています。役場職員以外ほとんどの町民は大塩町長を知らない中で選挙に立候補され、見事に4,715票を投票された。すごいなと思いました。今後は町長として町の隅々までよく見て、住民に声を掛けて、それから耳を傾けて、笑顔で長く住民が住みたいと思う町をつくっていただきたいと思っています。

白老町は政争の町とよく言われていました。ずっとそう言われていたのですが、私も12回選挙を経験していますが、今回の選挙ほど静かな選挙はなかったのではないのでしょうか。新しい選挙の仕方で当選されたなと思っています。

まちづくりの原点は、役場が1つになって、それから町民が1つになることです。私が議員になってからも選挙のたびに常に2つに分かれていくのです。選挙が終わって2年位すると仲良くなるのだけど、4年するとまた2つに分かれてしまうのです。

今回の選挙は、当初は3人の選挙戦と言っていたのが2人になって、白老にとっては珍しい選挙で、まさに二元代表制の選挙でした。それから、室蘭市出身同士の選挙でしたが、議員のほうは12、13年白老に住んで、大塩町長は27年ですか。その長く住んだ一日の長があったのかなと捉えていました。

**○大塩町長** 松田議長からの町長になってやらなければならないことというか、今のお話で、やはり町の隅々まで見なければならぬ、町民の声を聞く、耳を傾ける。これは本当に大事なことだと思っています。私も選挙戦の中で役場の職員と一緒に皆さんのところに地域の声を聞きに行きますよ、そうでないと課題は見つからないよと。課題、課題と言いますが皆さんの声を聞かないと本当の課題は捉えられません。その課題を受けて役場でどういったことができるだろうと一つの政策として役場が政策

集団として決断していく、いろいろな方向性を決めていく。これが本当のまちづくりではないかと思っています。まさしく今議長がおっしゃったようにきちんと町の隅々まで見てしっかりやっていきたいと思っています。

**○松田議長** いろいろ大きな問題があるので役場が1つになるべきだと話したのですが、役場の中では福祉関係が一番評価されています。「白老の福祉は親切な人ばかりだ、いつ行っても笑顔で話をする。」このような話はよく聞きます。

反対に、命を守る町立病院は「なんだ、あの病院」と、とにかく評価が低いです。命を守る町立病院の建設計画があります。病院の内部改革と一日も早く建設すること、これが大塩町長の大きな使命だと思うのですが、どうですか。

**○大塩町長** 議長から福祉関係が評価されているよというお話を伺いました。私もそういった話をよく聞きます。ある方からは、体がちょっと不自由になっていろいろと家を改装しなければならない、玄関をバリアフリーにしなければならないといったときに、役場の健康福祉課の人が親身になって話を聞いてくれて本当にうれしかったという話を聞いて、それは本当に評価されてよかったと思っています。本当に私たちに寄り添ってくれたという言葉いただきました。

その一方、「ただ、病院は寄り添ってくれないよね。」という話で、今回の選挙戦でいろいろ歩きましたが、やはり病院に対する思い、どうにかしてほしい、何とかしてほしいという裏側には、皆さん体調が悪いのにわざわざ遠くまで行きたくないと思うのは当たり前で、私もそう思うのです。信頼できる、寄り添ってくれる病院だったら町立病院にかかりたいと皆さんそう思っていると思いますので、町民の皆さんに寄り添うというか本当の意味での町立病院となるよう、病院の経営者として取り組んでいきたいと思っています。

あともう1点は、議長からお話のあった新しい病院づくり。先日の全員協議会の中で少し説明させていただきましたが、資材が入ってこない等の理由で開院が半年ほど延びてしまったことは、町民の皆様にお詫びを申し上げなければならないと思っています。開院が遅れてしまいますけれども、皆さんのご期待に沿えるようなきちんとした病院づくりをしていきたい、建物の部分も病院職員の寄り添う気持ちの部分もきちんと形にしていきたいと思っています。

**○松田議長** 今年の7月でウポポイが開業して丸3年になります。ウポポイができたら観光人口が100万人くらい訪れる。町も国もそのような考えでした。我々も当初は100万人来ると思っていました。だけどコロナがあって計画が全て吹っ飛んでしまいました。町もウポポイ周辺に23億円をかけて、特急列車も31本も通ります。これも国の政策です。コロナが終息してきて、少しは町の姿が変わるくらいの観光の契機になるのではないかと我々は期待しているのですが、これも全体的が外れてしまって

います。町は何度も何度も100万人来ると言い続けました。これは国も言っています。前町長は社台から虎杖浜まで町が変わる、唯一無二の白老町になる。このような話だったので。

町長に就任して、これからの町の在り方、ウポポイを含めてどのような考えを持っていますか。

**○大塩町長** 議長のお話のとおり、コロナの終息が大分見えてきて、白老の町も少しずつ外国の方が歩くようになってきました。いよいよ本格的にいろいろな方に訪れていただけると期待しているところです。ウポポイを観光の起爆剤と言われるのですけれども、多くの方に来ていただいて、そして経済を活性化していきたいというのはもちろんです。

さらには、白老町は社台から虎杖浜までありますので、ただウポポイに来て終わりということではなくて、社台から虎杖浜まで周遊していただく、こういった策も考えていかなければならないと思っています。

今回改めて選挙で歩いてみて、竹浦・虎杖浜へ行くと札幌ナンバーの車が飲食店に沢山いらしているのです。私もお昼を食べようと思って、例えば虎杖浜の浜通りのカフェに行くと満席で入れないのです。また場所を変えて行こうと思っても、そこもまた入れない。今はもうスマートフォンの時代、情報の時代ですから、恐らくウポポイに来て何かおいしいところがないかなと探して来たのではないかと思うのですけれども、やはりそうした情報発信というのは観光協会とタグを組んで行わなければならないと思いますので、白老町に来ていただいた方においしいお店があるよとPRして、どんどん周遊していただく。さらに飲食店だけではなくて、白老町にはたくさんの観光資源がありますのでそういったものも見ていただくことで町を活性化していきたいと考えています。

その一方で、地域の方の生活も大事にしなければなりません。観光地になるといろんな方が来ることによってごみ問題や騒音問題、そういった問題がこれから出てくると思います。ウポポイができて良かったと思う反面、絶対に地域に住んでいる方に迷惑をかけてはいけないということです。そこも大事にしなければならないと思っています。

ある自治体の方から、「人がたくさん来て町の経済が活性化すると言うけれども、我々は何も恩恵を受けていない。」という有名な観光地になったことによる地域の方の思い、苦情があると聞いたものですから、地域の町民の皆さんにも何か還元できるように、そして地域の皆さんの生活に迷惑をかけないように、そういったことも考えていかなければならないと思っています。

**○松田議長** 町に100万人来たとしても、車やバスで来てそのまま帰る方が多いの

です。社台から虎杖浜まできれいな町にしてほしいと思っています。きれいな町とは、国道沿いの道路や中に入る道路も、それほどお金がかからないから草を刈る。町の隅々までできなくても、観光に訪れた方が通る道路は常に草を刈り、白老町はきれいな町だなど思うようにするべきです。そういうことをぜひともしてほしいと思います。

**○大塩町長**　これまで町として 100 万人が来たときのおもてなし体制を整えてきました。本当の意味でのおもてなしとは、環境整備からだと思っています。観光で訪れた方が白老町を見たときのイメージは大切です。この町は汚いなというイメージを持たれると、また来ようという気持ちにはなれませんので、議長がおっしゃるようにおもてなしとしての環境整備も大事なことだと思います。そちらもきちんとしていきたいと思っています。

**○松田議長**　町民の半分近くは高齢者で、萩野から虎杖浜までスーパーがなくなり買い物難民になっています。一昨年からデマンドバスができて多少喜んでいる町民もいますが、それはほんの一部の人たちで、85 歳を過ぎた高齢者の中には、デマンドバスの頼み方もバスの時刻表の見方も分からない方もいるのです。一番活躍しているのは福祉有償運送で、玄関から玄関、しかも荷物も持ってくれます。バスは便利なようですが、もう少し足りないのです。何が足りないのかというと、職員の考えと町民の考えがかけ離れているような気がします。時刻表にしても何にしても方法をもう少し考えるべきではないかと思うのですが、この辺をもう少しどうにかできないものでしょうか。

**○大塩町長**　町民の皆さんの声を聞いたときに一番多かったのが、「病院を何とかしてほしい」ということと、「何とか足を確保してほしい」ということです。買い物に行くにも病院に行くにも何をすることも足がないと動けないという話を聞いて、足の確保が大事だと私も認識しています。

町としても一生懸命、デマンドバスで足の確保に取り組んでいます。まだまだ不十分なことは私も承知していますが、福祉有償運送のお話やダイヤに町民の皆さんの声をきちんと取り入れてというお話をいただきましたので、町民の皆さんに何が必要か、これからどういった策があるのか、皆さんが必要としているものを町としてきちんと捉えて進めていきたいと思っています。

**○松田議長**　白老町では、令和 4 年度は 315 人が亡くなって、生まれた子供が 30 人です。単純に白老町の人口は減っていきます。どこの市町村も同じで人口減少に歯止めという策はなかなか見当たるものではないし、出生率を上げるといっても急に 100 人も上げられるものでもありません。上がったって 1 人か 2 人くらいだと思います。人口減少に見合ったまちづくりに大きくかじを切らないとだめなのです。長期計画では、何年かすると 1 万 2,000 人にするとか 1 万人になるとか、これは現実的な話です。

人口減少に歯止めをかける策とは、幾ら口で言っても簡単な話ではありません。町長として町民に「人口減少に歯止めをかける」という言葉を使わないとだめなのです。これから何期か町長を務めても減っていく一方で増えることはないでしょう。なぜ人口が減るのかということも町民にきちんと説明しておかないと、人口が減るところに人は住んでいられません。足がないからよその町に行く、流出と流入です。今までの行政は歯止めをかけるような話を言っているだけで、どうしたら歯止めがかかるのか、人口を増やすとかそういうことも分かりやすく、上手く説明する方法を取らないとだめだと思っています。なかなか難しい問題ですね。

**○大塩町長** 議長から 315 人亡くなって 30 人生まれたと具体的な数字がありました。足し引きすると 285 人減っています。このほかに転出された方、転入されてきた方もいらっしゃるでしょう。そういう要素の中で人口が減少している状況だと思えます。全国各地どこの町でも人口減少を問題として、人口減少を食い止めます、歯止めをかけますと各町の皆さんも話しています。私も今回重点項目として人口減少対策を掲げました。このような話をすると人口減少なんて止められないよと言われますが、町のトップとして「もうそんなの食い止められない」と思ってしまえばそれで終わってしまいますので、決してそこは諦めないで少しでも人口を増やす、減らさないという策を講じていきたいと思っています。ただ正直な話、人口を増やすのは至難の業です。各町で人の奪い合いと言ったら言葉が悪いのですが、そういった現象もあります。何とか食い止めたいと思っていますが、まずは人口減少を抑制することが現実的かなと考えています。

白老町の特徴として、町民意識調査では町への愛着度が高い結果が出ていて、町民の愛着度を大事にしなければならぬと思っています。白老のことが好きだよ、食べ物もおいしいし、自然も豊かだし大好きだよと仰ってくださる町民の方がいっぱいいますので、今いらっしゃる方々を大切に、白老に住み続けてほしいと思っています。やはり人口が少なくなると町が存続できないことは誰もが分かっていることだと思いますので、町が持続可能であるように人口減少を食い止める策を一生懸命考えていきたいと思っています。

**○松田議長** 白老町は各地域 6 か所あって、小ぢんまりした町をつくろうといても建物は立っているし、上下水道も整備されています。来年は町制 70 周年を迎えますが、2 万 5,000 人近くいた人口が今は約 1 万 6,000 人まで減少し、人口が増加した頃に建設した施設は建築後 65 年となり老朽化しています。これから思い切った施設の集約、整理、そして整備をしなければなりません。町では一千億円の費用が必要だと言っています。町長になったばかりで言える言葉ではないかもしれませんが、どのように老朽化施設を人口に見合ったかたちで整理していくのか、これは大きな課題で

簡単なものではありません。しかし早急に考えていかなければ、きれいな町にも住みたい町にもならないと思うのです。

**○大塩町長** 公共施設の適正配置は町の財政に影響する大きな課題だと捉えています。財政健全化プランを作成したときから公共施設の適正配置は町の財政を立て直す一つの方策だと言われてきました。それから紆余曲折がありまだ整理できていない状況は確かです。当時2万5,000人の人口規模による公共施設の配置整備を行ってきた、今人口は半分になろうとしていることを考えると、単純にその規模による公共施設のコンパクト化、整理をしていかなければならないと思っています。さらに白老町の公共施設は他の町に比べて老朽度が高いという結果も出ています。議長がおっしゃるように建築後60年以上の施設ばかりの状況なので、こういった整理も含めてきちんと進めていかなければなりません。

コンパクト化ということで集約していくよという話をさせていただきましたが、一番考えなければならないのは、地域の住民の方に使われている施設なので簡単にこの施設をなくしますということとはできないと思っています。これまでも地域の皆さんに使われてきた施設だということを念頭に置いて、例えば近くにあることここの施設を1つにして機能を高める、施設は少なくなるけど何とか機能を高めることができいいのかと考えています。地域の皆さんの声をきちんと聞いてそういった整理・集約化を進めていきたいと考えています。急がなければならないのですが、少し時間はかかるとしています。

**○松田議長** ふるさと納税が思ったよりも増えていて、令和4年度は10億円近いと聞いています。ふるさと納税は、一番は白老牛やたらこが食べたいという方だと思いますが、白老町を良くしたい、白老町に納税して助けたいという思いの方もいると思います。

役場の建設計画が出ていますが、ふるさと納税は人の心ですから、大塩町長の政策として、思い切ってふるさと納税を全額何年分かで役場庁舎を建設するぐらいの大きな決断をしてはどうでしょうか。今はふるさと納税の使い道がばらばらで、何に使っているのか全然分からないし、しかも財政調整基金に積んでいますね。そうではなく、それぐらいの決断をしてもいいのではないのでしょうか。

**○大塩町長** 役場庁舎の改築ですが、耐震性の問題、時代に即した機能を有していないなど、改築に向けて取り組まなければならないと思っています。現状、役場をどのように変えていくかという基本構想をつくっていて、それから役場の基本計画に取り組む予定となっています。

議長から白老町へのふるさと納税を活用して役場の改築を進めてはどうかとご提言をいただきました。ふるさと納税というのは白老町を思ってくれている、白老町を

応援したいということで寄付して頂いていますので、まさしく白老町を応援していただきたいということで、町のシンボルとなる庁舎の建築にふるさと納税を活用することは、素晴らしいご意見として私の頭の中に入れさせていただきたいと思えます。

ただ、ご承知だと思いますが、教育分野に使ってほしいとかそれぞれ寄付して頂いている方の思いもありますので、1つは役場庁舎を検討しているので応援をしてもらえませんかという項目をつくることも考えられます。発想として、ふるさと納税を活用した役場建築ということを全然想定していなかったものですから、素晴らしいご意見を頂きましたので、実際に具体的に考えていきたいと思えます。

**○松田議長** ウポポイには全国の方が訪れます。ふるさと納税をされた方もウポポイを1回見たい、役場庁舎にふるさと納税を活用して建てたら、納税した方はぜひ役場も見たいと、むしろ役場を見たいからウポポイに行くという人も出てくるかもしれません。

先日亡くなった方が、子供もいないので自分のお金は役場に寄付すると常に言っていました。町に寄付すると言っていたお金がどうなったのかは分かりませんが、これから子供のいない人が増えてきて役場建設に寄付する方もいるのではないのでしょうか。役場建設は1回に全額支払うわけではなく何年かで払っていきますよね。そういう寄付とふるさと納税で建てたらいろいろな効果もあると思えます。思い切った大塩政策としてやってみてはどうでしょうか。

**○大塩町長** 寄付してくださった方が、どんな役場だろうと見に来る、いろんな思いで寄付する。まさしくみんなで建築する役場というような、さらにはいろんな可能性を秘めている。思い切りやれとおっしゃっていただいたので、ご意見を参考に考えてみたいと思えます。

**○司会** 大塩町長は選挙公約をどのような思いで掲げられ、町民の方々にどのように伝え、どのようなまちづくりを目指しているのか教えてください。

**○大塩町長** 選挙公約には、3つの将来像「魅力あふれるまちしらおい」、「人も仕事も活力あふれるまちしらおい」、「誰もが幸せ感じるまちしらおい」と、9つの目標を掲げました。これは町長が変わっても揺るがない計画として白老町総合計画に定められていることです。この計画によってまちづくりをしていくのは当たり前のことだろうと。ことばを少し変えておりますが、今回「魅力」、「活力」、「幸福感」という3つの将来像を決め、魅力あふれるまちにするには何が必要か、活力あるまちにするには何が必要か、誰もが幸せ感じるまちにするには何が必要か。白老町にとって何が必要かと考えて9つの目標を掲げました。9つの目標の中で何を大事にしたいかという重点項目で、まず「子どもはまちの宝」ということで、子育て支援を重点的に進めて

いきたいと思っています。

次に、「町民一人ひとりがまちの財産」ということで人口減少対策を進めていきたい。共感力、暮らしの充実ということで、幸せだなと感じることができるのは暮らしが充実しているからだと思っています。子育て支援、人口減少対策、暮らしの充実、この3つを重点項目として今後まちづくりを進めていきたいと思っています。

今回の公約の中で一つ注目していただきたいのは、財源を掲げたところです。選挙になるとあれもやります、これもやります。と言って、それは本当にできるのかと疑問だったと思います。私は役場職員時代に財政課長だったこともあり、やはりこういう事業を町で取り組んでいくためには必ずお金が必要になってきますので、これをやっていくためにはどのようなお金が必要か、どのようにお金を使うのか、皆さんに示したほうが良いということで、主な財源、こういった国のお金を使います、町の貯金を使います、ふるさと納税を活用します、こういうお金を用意してきちんと予算化して事業を進めていきます。と公約に掲げました。手前みそではありますが、これまでこういった形では出ていなかったかなと、初めての試みだと思っています。町民の皆さんに嘘偽りがないと証明をするために主な財源を掲げたわけです。

次に、どのようなまちづくりを進めていくか、目指すのかということですが、今後4年間、「共感広がる信頼のまちづくり」を基本方針としてまちづくりをしていきたいと思っています。共感広がるとは何かと言いますと、行政の課題は役場だけで解決できる時代ではないと思っていますので、議員の皆さん、町民の皆さんはもちろん、企業の皆さん、団体の皆さん、いろいろな方のご意見を聞いて、あんなことができるのではないか、こんなことができるのではないかとみんなで知恵を絞ってまちづくりをしていきたいのです。そのためには私が町に出ている方々の声を聞く、いろいろな方の意見に耳を傾ける、そうしてみんなで知恵を絞る。これが共感広がるという意味です。共感が広がった中で、あんなことができるよね、こんなことができるよね、という意見を集約してこれをやりましようとなったときに、「本当に自分の意見を取り入れてまちづくりを進めてくれた」と信頼関係が生まれる。役場の外の方との信頼関係もありますし、冒頭、議長から役場の中もいかなものだというお話もあったのですが、いろいろな考え方があって役場の中の信頼関係という部分ではなかなか難しい状況もあります。私は役場職員だったものですから、今までそう感じていた部分もありますので、やはり役場がきちんと仕事をしてくれないと良いまちづくりはできないと思っていますので、そういった職員同志の信頼関係、役場の外との信頼関係をきちんと結んでまちづくりをしていきたいという考えです。最終的にはみんなが手と手を取り合ってまちづくりをしていきたいと思いますというのが、私のまちづくりの基本精神です。

議員の皆さんへの要望と言われますと、私のまちづくりの基本方針であります「共

感広がる信頼のまちづくり」という観点から、議員の皆さんからもどんどんご意見をいただきたいということです。もちろんこれまでもご意見、ご提言をいただいているのですが、これまで以上にもっともっとご意見をいただきたいのです。議長からもご発言があったように、議会と行政は車の両輪だと、両輪がきちんと動いて初めて車が動くというように、議員の皆さんからこれまで以上にたくさんのご意見、ご提言をいただいて、一緒に良いまちづくりを進めていきたいと思っています。

○司会　最後に、町民の皆さんへお願いしたいことはありますか。

○大塩町長　今回の選挙で投票率が低かったのは大変ショックで、残念でした。まちづくりへの関心が低いあかしだと思います。町のトップを決めるのに知名度合戦はしたくありません。皆さんに関心を持ってもらって、きちんと政策を見て、「よし、あの人なら信頼できる。」と投票していただきたいのです。これがまちづくりの第一歩だと思っています。ただ、過去最低だった数字を見るとまちづくりへの関心が低いなと残念に思ったものですから、この投票率の低さを踏まえてまちづくりに関心を持ってもらえるように努力したいと思っています。ただ言うだけでは通じませんので、私も努力しますから、町民の皆さんもまちづくりに関心を持ってください。お願いします。

○松田議長　有権者約1万4,000人のうち高齢者が7,500人です。投票率が低かったのは、残りの若者が選挙に行かなかったのでしょうか。高齢者は、投票所に行く足がないとか足が痛くて行けない人も結構いたようです。選挙には行かないと言っている人もいて、そのような人は何を言っても行かないのですよね。

○大塩町長　私も歩いてみて、選挙に行きたいけど行けないという方がいらっしゃいました。道内のある町では投票箱を持ち運んで投票してもらっています。そのような事例があるということは、本当に行きたくても行けないという方のために法律上認められているのだと思います。

また、議長がおっしゃるように、若い層が無関心で、誰がなっても変わらないよという考えもあるようです。

○司会　投票率を分析したものがありましたら、議会にも頂ければ今後の検討材料にしたいと思います。

時間になりましたので、以上で対談を終了いたします。これからも良いまちづくりのためにお互いに頑張っていきましょう。お忙しいなかありがとうございました。